

特集

肘関節鏡視下手術のテクニック

近年、肘関節の鏡視下手術は様々な疾患に応用されています。鏡視下手術により低侵襲に的確に手術ができるので、スポーツ障害のみならず上顆炎、拘縮、および骨折に応用されています。しかし、手技を誤ると大変です。また、手技上の壁にぶち当たり、立ち止まることも少なくありません。

そこで本特集では、日本を代表する超一流の諸先生に執筆をお願いしました。基本のテクニックは宇野智洋先生、様々なスポーツ障害は横山賢二先生、山崎哲也先生、三幡輝久先生、および高橋憲正先生、外側上顆炎は鈴木 拓先生、内側上顆炎は織田崇先生、拘縮は轉法輪 光先生、変形性肘関節症は塩出亮哉先生、鉤状突起骨折は原田幹生先生、橈骨頭骨折は根本高幸先生、外側顆骨折は大浦圭一郎先生に匠の技とコツを披露していただきました。お忙しい中、ご執筆くださいました諸先生に心より深謝を申し上げます。

本特集には、スペシャリストの技とそれを可能にするコツが散りばめられています。手技上の問題がさらりと解消する秘伝書となること間違いありません。読者の皆様には、これらの日本を代表するスペシャリストの技を会得して、さらなる前進を遂げられますことを祈念しております。

(高原政利)